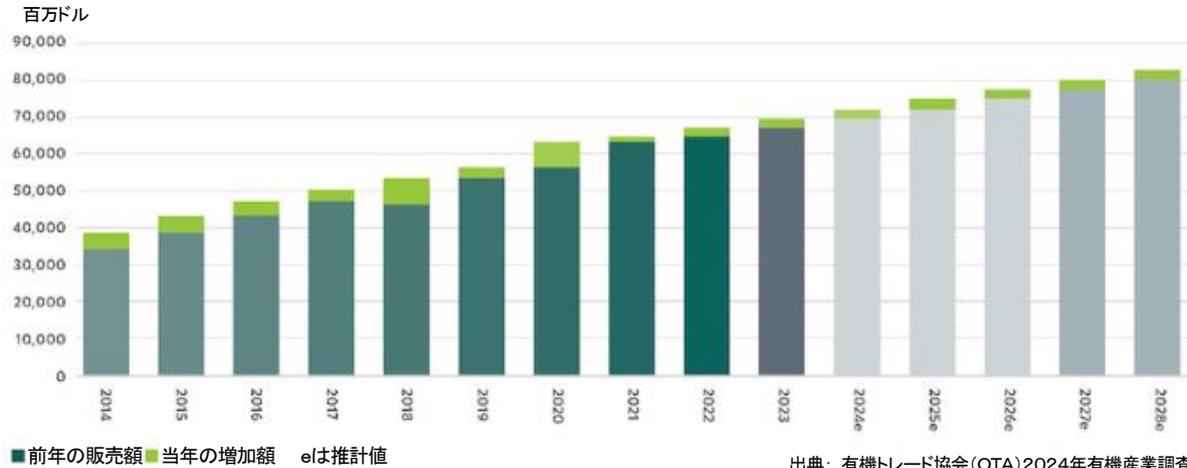


## 米国の有機セクター 2023年に記録的な販売額を計上

Produce Market Guide 2024年5月14日

## 米国の有機販売額及びその成長 2014~2028e



■前年の販売額 ■当年の増加額 eは推計値

出典：有機トレード協会(OTA)2024年有機産業調査

有機トレード協会(OTA)の新しい調査によると、2023年の有機認証製品の販売額は再び記録を更新した(図提供：OTA)

有機トレード協会(OTA)の新しい調査によると、2023年の米国の有機認証製品の販売額は700億ドルに近づき、この分野の新記録となった。

OTAの2024年有機産業調査によると、米国の2023年の有機市場の販売額は697億ドルに達し、2022年と比較して3.4%増加した。2023年の有機食品の販売額は638億ドル、食品以外の有機製品の販売額は59億ドルであった。

OTAの調査は、2023年の有機生鮮果実・野菜の販売額が2.6%増加し205億ドルに達したとしている。同調査によると、有機食品の販売額の最大の構成要素である有機青果物は、現在、米国の果実・野菜の販売額の15%以上を占めている。

ニュースリリースによると、有機農産物部門で最も売れたのはアボカド、ベリー類、リンゴ、ニンジン、パック入りサラダで、有機バナナの2023年の伸び率は非有機のバナナよりも大きかった。

OTAの共同CEOであるトム・チャップマン氏はリリースで、「有機農産物が市場全体と基本的に同じ速度で成長しているのを見るのは勇気づけられることである。インフレに直面し、有機がすでに高級品の部類であると見なされていることを考えると、現在の成長は、消費者が経済的困難と価格上昇の中で有機製品を選択し続けていることを示している。有機は現在、市場で成熟しつつある分野だが、まだ成長の余地は十分にある」と述べている。

同じくOTAの共同CEOであるマシュー・ディロン氏は、有機製品の販売額の継続的な成長は、消費者教育にかかっている部分もあると言う。

同氏はリリースで、「健康的な食品へのアクセス、サプライチェーンの透明性の向上、気候変動の緩和、農村経済の回復力への支援、天然資源の保護、その他多くの利益を実現し、これらの約束を効果的に伝え、実現するかどうか、我々の食卓における有機製品のシェアを拡大するための鍵である」と述べている。

リリースによると、2023年の有機市場における販売額の増加は、販売数量の増加よりも価格の上昇によるものである。今年の調査で追跡した商品の最大40%で、販売数量の増加が報告された。

また、この調査では、多くの非有機製品の価格が有機製品よりも速いペースで上昇していることも示された。

慣行栽培の食品と有機食品の差は縮まりつつあり、OTAはこのことが2024年の有機食品の成長を促進するはずだとしている。

OTAによると、2023年も相変わらず小売店の通路の能書きや表示の数は増えたが、有機認証シールは消費者にとって際立った存在であった。

個人や家族の健康、持続可能性、及び添加物(抗生物質、ホルモン剤、防腐剤、着色料)を含まないクリーンな商品への消費者の関心の高まりにより、消費者は有機産品に目を向けるようになった。

リリースによると、有機食品に関連する潜在的な健康上の利点を認識する消費者が増えており、多くの消費者、特にZ世代は、食品の選択における倫理的な関わりをますます意識し、動物福祉、フェアトレード、有機生産者への支援など、自らの価値観に沿った商品を探している。

OTAによると、ミレニアル世代とZ世代の有機への関心が一貫して高まっていることを調査結果は示している。

OTAはリリースで「これらの世代は有機や持続可能性の概念とともに育ち、これらの消費者にとって、人々の健康と地球の健康は最優先事項である」としている。

リリースによると、業界の専門家らは、有機産品の分野は現在及び将来の世代の消費者が求める商品の属性と価値を満たすのに適した立場にあるとして、これをチャンスと捉えている。2030年までに、米国の人口はミレニアル世代、Z世代、及びそれより若い世代によって牽引される層が過半数を占めるようになる。

しかし、有機は課題に直面している、とリリースは記している。

OTAは「市場に混乱をもたらしている最新の用語は『リジェネラティブ』(regenerative 再生的)である。このラベルはまだ、消費者にとって必ずしも最優先事項ではないが、それが表すと主張している事柄には、土壌の健康、動物と人間の福祉、生物多様性などの属性が含まれ、それらは米国農務省の有機シールによってすでに具現化されている。環境再生型農業に関する新しい認証が発達するにつれて、消費者の混乱が懸念され、有機教育を向上させることがますます重要になっている」としている。

執筆者: トム・カースト